



Trados License Server Manager

セットアップガイド

July 2024

目次

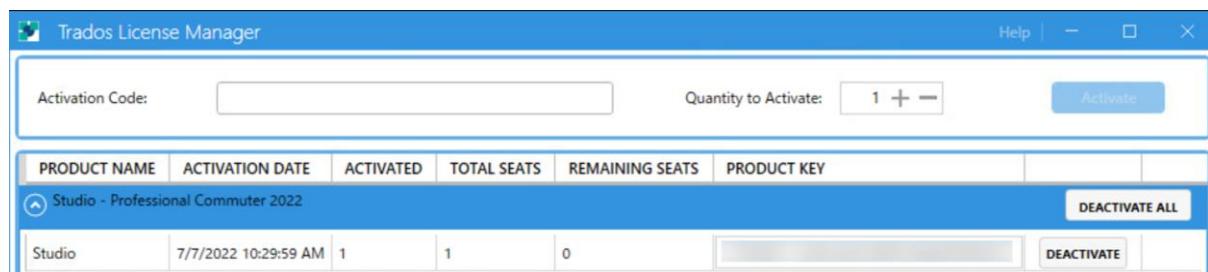
| | | |
|------|---------------------------------------------------|----|
| 1. | はじめに | 1 |
| 1.1. | ネットワークライセンスの概要 | 2 |
| 1.2. | Trados License Server Manager のインストール要件 | 3 |
| 2. | ソフトウェアのダウンロードとインストール | 4 |
| 2.1. | Trados License Server Manager のダウンロード | 4 |
| 2.2. | コンポーネントの説明 | 5 |
| 3. | ライセンスのアクティブ化と非アクティブ化 | 6 |
| 3.1. | オンラインによるライセンスのアクティブ化 | 6 |
| 3.2. | オンラインによるライセンスの非アクティブ化 | 8 |
| 3.3. | オフラインによるライセンスのアクティブ化 | 9 |
| 3.4. | オフラインによるライセンスの非アクティブ化 | 13 |
| 4. | Trados License Server Manager で IPv6 接続を使用するための設定 | 15 |
| 5. | Trados Studio 側でのネットワークライセンスの使用方法 | 16 |
| 6. | アクセスログ取得の概要 | 19 |
| 6.1. | アクセスログの取得のための設定 | 19 |
| 6.2. | コマンドの実行と CSV ファイルへの出力 | 21 |
| 6.3. | 開始日および終了日の設定 | 22 |
| 6.4. | CSV ファイルの内容 | 22 |
| 7. | ライセンスに問題が発生した時 | 23 |
| 7.1. | RWS アカウントからのライセンスリセット | 23 |
| 7.2. | RWS サポートによるライセンス関連サポート | 25 |
| 7.3. | ネットワークライセンス関連ファイルの保存場所 | 27 |
| 7.4. | 非アクティブ化に失敗する場合の対処方法（ネットワークライセンスの強制削除） | 28 |
| 7.5. | ネットワークライセンスのアクティブ化または非アクティブ化の際にエラーが表示される場合の対処方法 | 30 |
| 7.6. | アクティブ化済みのネットワークライセンス数や使用中のネットワークライセンス数を正確に確認する方法 | 37 |

1. はじめに

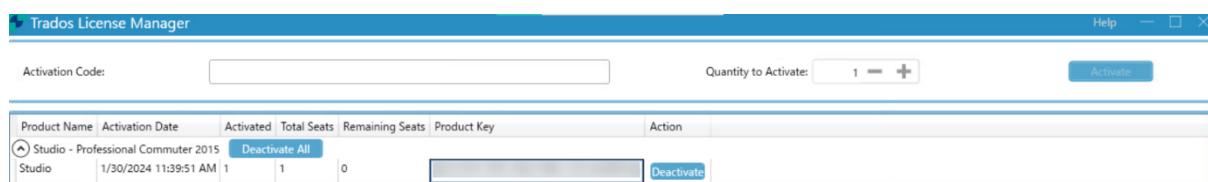
Trados License Server Manager についての概要とインストール要件について説明します。

※ このドキュメントの記述とスクリーンショットは Trados License Server Manager バージョン 17.0.134 をベースとしています。2024 年 3 月にリリースされた [License Server Manager バージョン 17.0.648](#) とはユーザーインターフェイスの外観やレイアウトが下図のように若干異なりますが、基本的な操作手順や機能等は同じです。バージョン 17.0.648 について詳しくは、[こちら](#)のナレッジベース記事もご覧ください。

【Trados License Server Manager バージョン 17.0.134 のユーザーインターフェイス】

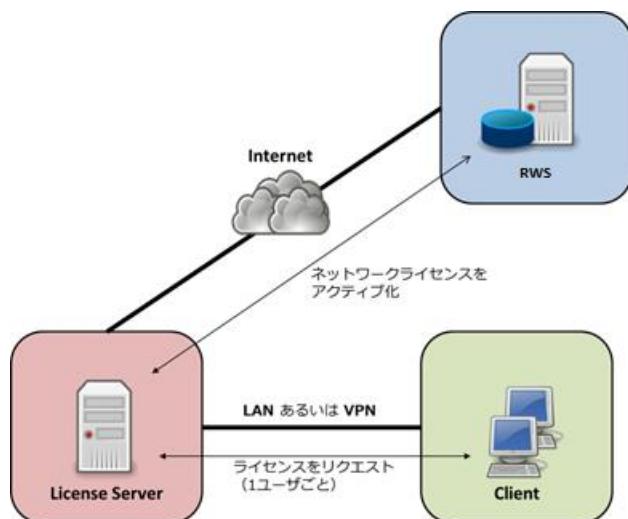


【Trados License Server Manager バージョン 17.0.648 のユーザーインターフェイス】



1.1. ネットワーク ライセンスの概要

ネットワークライセンスとは Trados Studio のライセンスを一元管理するためのシステムです。このシステムを利用することで、ライセンスの使用状況を集中管理でき、また 1 つのライセンスを複数のユーザー間で共有することが可能になります。



ネットワークライセンスを使用する場合、LAN（または VPN）内のサーバーマシンに Trados License Server Manager をインストールしてライセンス アクティベーションを行います。Windows Server OS または Windows OS であれば、他の用途に使用しているもので構いません。

その後、クライアント機に Trados Studio をインストールし、起動時に Trados License Server Manager を参照するように設定します（詳しくは、[Trados Studio 側でのネットワークライセンスの使用方法を参照してください](#)）。Trados License Server Manager をインストールしたサーバー機はインターネットに常時接続している必要はありません。

1.2. Trados License Server Manager のインストール要件

Trados License Server Manager をインストールするにあたり、下記の要件を満たしている必要があります。

- ネットワーク上の要件
 - ❖ UDP での名前解決のサポート
 - ❖ UDP5093 ポートの開放
 - ❖ サーバー側で IPv4 または IPv6 が有効である（※ 詳しくは、「[Trados License Server Manager で IPv6 接続を使用するための設定](#)」をご覧ください。）
- ライセンスサーバーの要件
 - ❖ Windows 8.1 / 10 / 11 (32bit あるいは 64bit の標準的仕様)
 - ❖ Windows Server 2012 以降のサーバー用オペレーティングシステム
 - ❖ Microsoft .NET Framework 3.5、または Microsoft .NET Framework 4.8 以降

Trados License Server Manager は仮想マシン上でも実行可能です。

Windows 8.1 以降または Windows Server 2012 以降に.NET Framework 3.5 をインストールする場合、以下の Microsoft 社技術記事を参照してください。

<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/2734782/net-framework-3-5-installation-error-0x800f0906--0x800f081f--0x800f09>

Microsoft .NET Framework 4.8 は以下から入手できます。

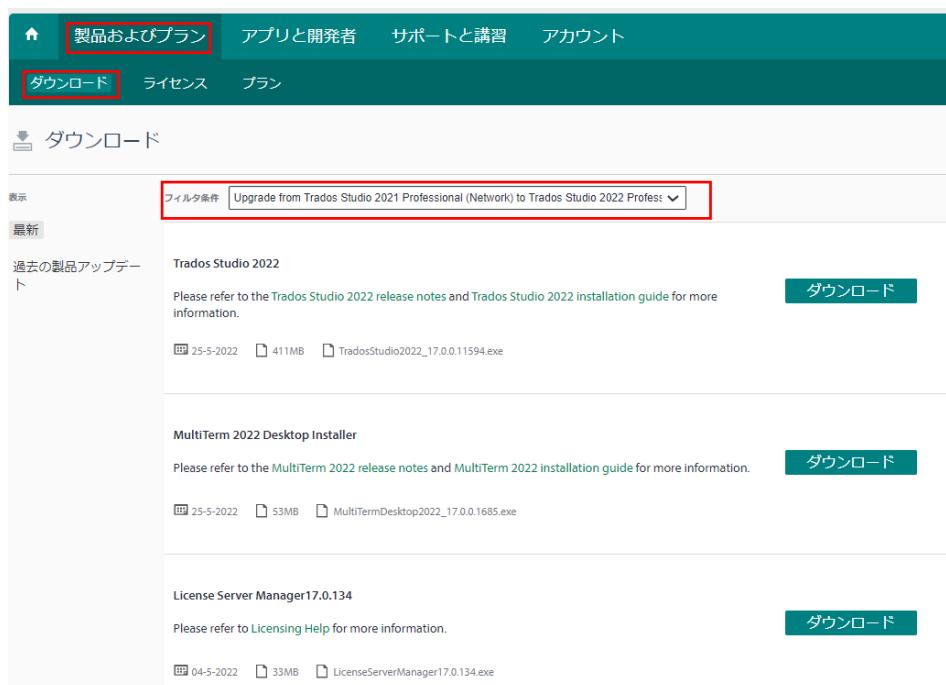
<https://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=2085155>

2. ソフトウェアのダウンロードとインストール

Trados License Server Manager のダウンロードとインストールについて説明します。ダウンロードは RWS アカウントより行います。

2.1. Trados License Server Manager のダウンロード

RWS アカウントにサインインし、[製品およびプラン] > [ダウンロード] のページを開きます。表示されている製品が多い場合、[フィルタ条件]より製品名を絞り込むことができます。



The screenshot shows the RWS product download page. The top navigation bar has tabs for '製品およびプラン' (selected), 'アプリと開発者', 'サポートと講習', and 'アカウント'. Below that is a secondary navigation bar with 'ダウンロード' (selected), 'ライセンス', and 'プラン'. The main content area is titled 'ダウンロード' (Downloads). A filter bar at the top says '表示' (Show) and 'フィルタ条件' (Filter condition) with the value 'Upgrade from Trados Studio 2021 Professional (Network) to Trados Studio 2022 Profes:'. There are three download items listed:

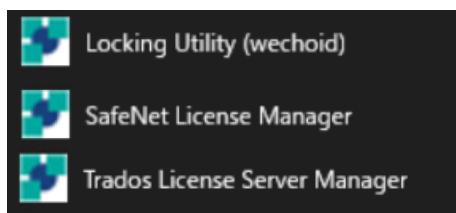
- Trados Studio 2022**
Please refer to the [Trados Studio 2022 release notes](#) and [Trados Studio 2022 installation guide](#) for more information.
ダウンロード button
Details: 25-5-2022, 411MB, TradosStudio2022_17.0.0.11594.exe
- MultiTerm 2022 Desktop Installer**
Please refer to the [MultiTerm 2022 release notes](#) and [MultiTerm 2022 installation guide](#) for more information.
ダウンロード button
Details: 25-5-2022, 53MB, MultiTermDesktop2022_17.0.0.1685.exe
- License Server Manager17.0.134**
Please refer to [Licensing Help](#) for more information.
ダウンロード button
Details: 04-5-2022, 33MB, LicenseServerManager17.0.134.exe

License Server Manager 17.0.134 のインストーラーをダウンロードしたらダブルクリックし、ウィザードの指示に従ってインストールを実行します。



2.2. コンポーネントの説明

インストーラーを実行すると、Windows スタートメニューの [SDL] フォルダ内に次の 3 点のプログラムがインストールされます。



- Locking Utility (wechoid)
ネットワークライセンスをオフラインでアクティブ化する際に使用します。
- SafeNet License Manager
ライセンスモジュールの管理ツール本体です。
- Trados License Server Manager
ネットワークライセンスをオンラインでアクティブ化および非アクティブ化する際に使用します。

3. ライセンスのアクティビ化と非アクティビ化

Trados License Server Manager にネットワークライセンスを適用することを**アクティビ化**あるいは**アクティベーション**と呼びます。またネットワークライセンスを返却することを**非アクティビ化**あるいは**ディアクティベーション**と呼びます。

3.1. オンラインによるライセンスのアクティビ化

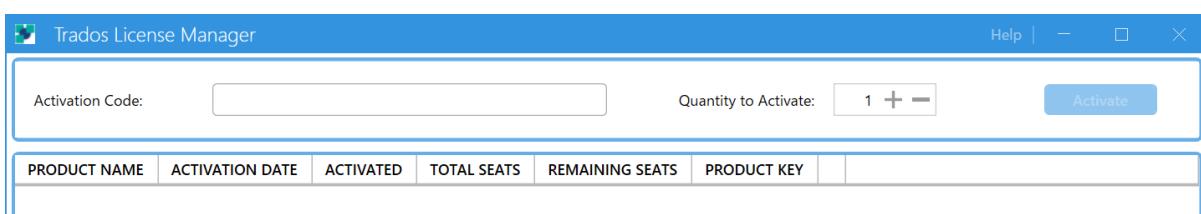
通常は Trados License Server Manager からインターネット経由で RWS のライセンス管理サーバーと通信を行い、ライセンスを適用します。これは**オンラインでのアクティビ化**あるいは**オンラインアクティベーション**と呼ばれます。

1. RWS アカウント (<https://oos.sdl.com>) にサインインします。[製品およびプラン] > [ライセンス] よりアクティビ化したいライセンスを探し、16 進数で表記されたアクティベーションコードをコピーします。

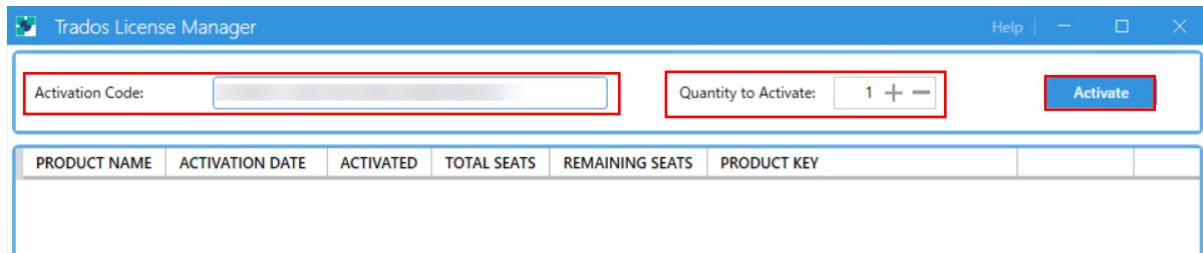


オンラインでアクティビ化できない場合、オフラインアクティビ化証明書を取得

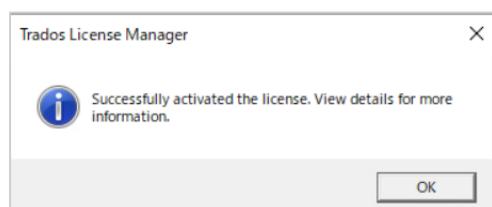
2. Trados License Server Manager を起動します。



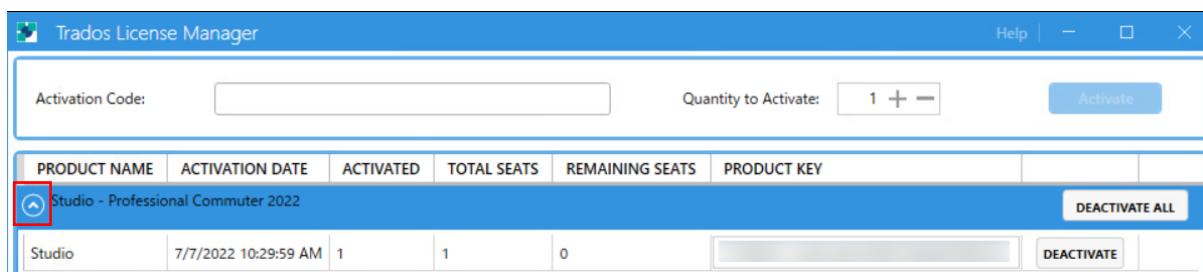
[Activation Code]のボックスにコピーしたアクティベーションコードを貼り付けます。[Quantity to Activate]でライセンスのユーザー数を設定し、[Activate]をクリックします。



アクティブ化が完了します。



追加されたライセンスの行をクリックして展開するとアクティブ化されたライセンスの詳細が確認できます。



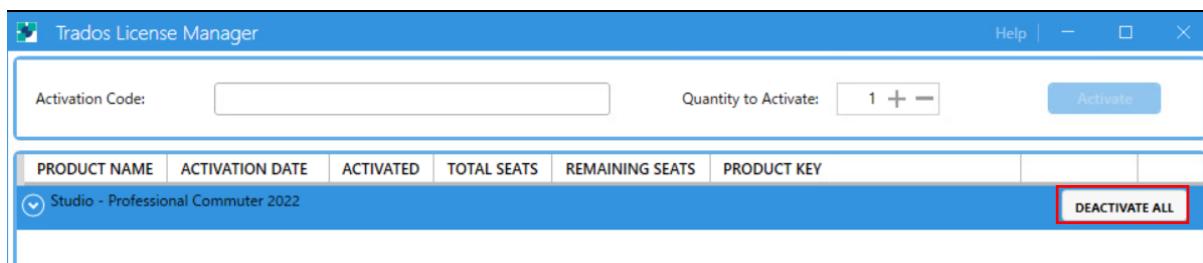
[ACTIVATED]の数字がアクティブ化済みのユーザー数を、[REMAINING SEATS]の数字が RWS アカウント上でアクティブ化されずに残っているユーザー数を示します。[TOTAL SEATS]は両者の合計数を表します。

同一の Trados License Server Manager 上で、Trados Studio 2015 / 2017 / 2019 / 2021 / 2022 のネットワークライセンスを同時にアクティブ化できます。

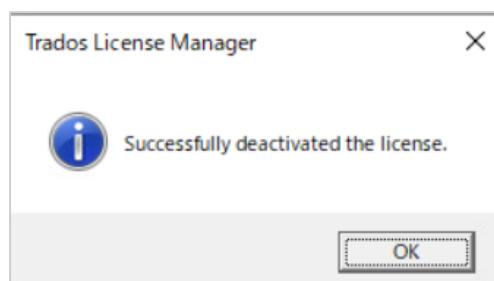
3.2. オンラインによるライセンスの非アクティブ化

ネットワークライセンスを返却する場合もインターネット経由で Trados License Server Manager から RWS 側のライセンス管理サーバーに接続します。これは**オンラインでの非アクティブ化**あるいは**オンラインディアクティベーション**と呼ばれます。

1. Trados License Server Manager を起動し、リストより現在アクティブなライセンスを確認の上、[DEACTIVATE ALL]をクリックします。



2. ライセンスの非アクティブ化が完了します。



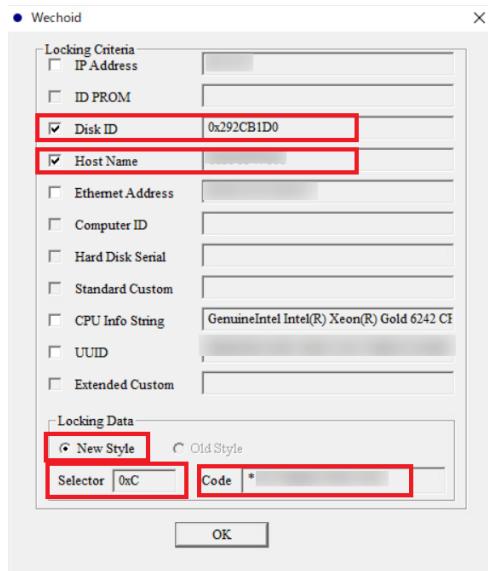
ライセンスの非アクティブ化を実行すると、必ず全てのユーザーが返却されます。ユーザー数を指定して部分的に返却することはできません。

3.3. オフラインによるライセンスのアクティブ化

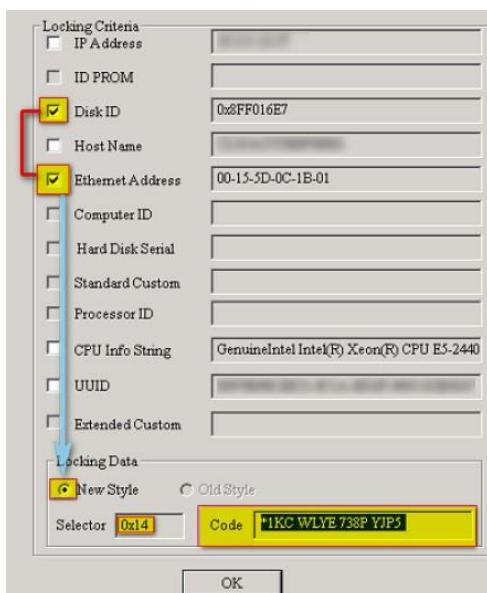
Trados License Server Manager がインストールされたコンピューターに対して何らかの理由でインターネットへの接続が制限されている場合、インターネット接続が可能なコンピューターから RWS アカウントにサインインし、代理でライセンス情報を取得することでアクティブ化が可能になります。これをオフラインでのアクティブ化あるいはオフラインアクティベーションと呼びます。

1. ライセンスをアクティブ化する PC (サーバ) にインストールされた Locking Utility (wechoid) を起動します。 (※ RWS アカウントにログインしている PC ではありません。)

Trados Studio 2021 以降のネットワークライセンスをオフラインでアクティブ化する場合は、**Disk ID** および **Host Name** 以外の項目のチェックを外し、**Selector** の値が **0xC** になっていることを確認します。



Trados Studio 2019 以前のネットワークライセンスをオフラインでアクティブ化する場合
は、Disk ID および Ethernet Address 以外の項目のチェックを外し、Selector の値が 0x14 に
なっていることを確認します。



2. **Code** に表示されたロッキングコードをアスタリスクも含めコピーします。
3. RWS アカウント (<https://oos.sdl.com>) にサインインします。[製品およびプラン] > [ライセンス] よりアクティブ化したいライセンスを探し、[オンラインでアクティブ化できない場合-オフラインアクティブ化証明書を取得]のリンクをクリックします。



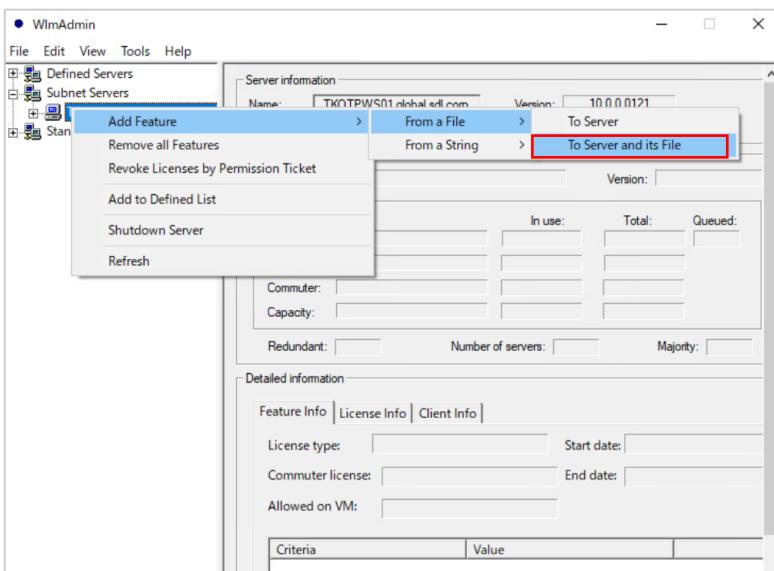
4. [オフラインアクティブ化証明書]のページが開きます。[インストール ID]のボックスに先ほどコピーしたロッキングコードをペーストし（ただし、コードの末尾に不要なスペースが入っていないことを確認してください）、[数量]よりユーザー数を確認の上、[オフラインアクティブ化証明書の生成]をクリックします。



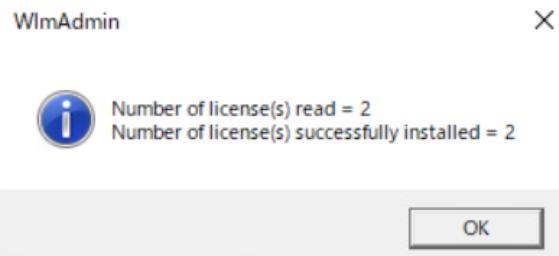
5. ウェブブラウザ上で **Isevrc** という名前のファイルがダウンロードされます。このファイルは自動的にメールでも送信されます。

6. **SafeNet License Manager** を起動します。

7. [Subnet Servers]より設定するコンピューターネームを右クリックし、[Add Feature] > [From a File] > [To Server and its File]を選択します。保存した Isevrc を選択し、SafeNet License Manager に適用します。



8. 以下の画面が表示され、アクティベーションが成功します。ユーザー数にかかわらず、常に Number of license(s)の値は 2 となります。



注: オフラインでアクティブ化したネットワークライセンスを Trados License Server Manager で確認すると、PRODUCT NAME 列に UNKNOWN と表示される場合がありますが、ネットワークライセンス自体は正常にアクティブ化されていますので使用上問題はありません。

3.4. オフラインによるライセンスの非アクティブ化

オフラインによるライセンスの非アクティブ化について説明します。オフラインにてアクティブ化したライセンスは、オフラインによる非アクティブ化が必要になります。

オフラインで非アクティブ化を行う場合、「Permission Ticket」という名称のライセンス解除ファイルが必要になります。こちらは RWS Support Gateway を通じてサポート担当者にリクエストする必要があります。

<https://gateway.sdl.com/webtocaserequest>

Submit New Translation Productivity Case

If you already have an active support and maintenance agreement, or if your product is not listed below then please log in to the [SDL Gateway](#) to submit a case.

If you do not have an active support contract and would like to contact support for issues other than installation and licensing then you can purchase a support contract [here](#).

| | |
|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| Name* | <input type="text"/> |
| Email* | <input type="text"/> |
| Phone* | <input type="text"/> |
| Subject* | <input type="text"/> |
| Description* | <input type="text"/> |
| Error Message | <input type="text"/> |
| Region | <input type="text" value="Europe, Middle East and Africa"/> |
| Case Type* | <input type="text" value="--None--"/> |
| Product Name* | <input type="text" value="--None--"/> |
| Version* | <input type="text" value="--None--"/> |
| <input type="button" value="Submit Case"/> | |

1. 入力フォームの各項目に以下のように記入します。

Name : 氏名

Email : 電子メールアドレス

Phone : 電話番号

Subject : 「Offline deactivation of Network license」と記入します

Description : ライセンスのアクティベーションコードと注文番号を記入します

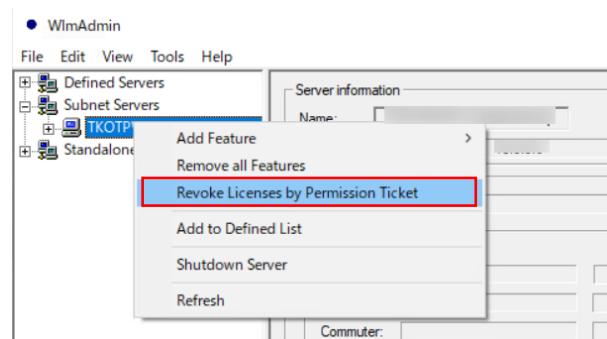
Region : Asia-Pacific

Case Type: Licensing

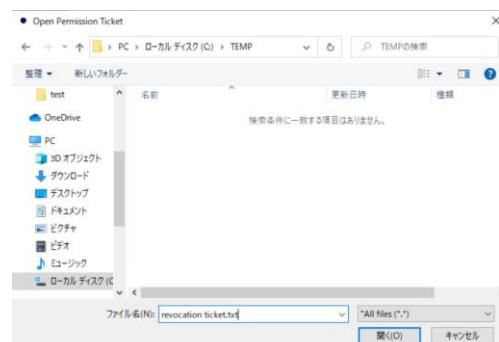
Product Name: Trados Studio

Version: 2014, 2015, 2017, 2019, 2021, 2022 のいずれか

2. 上記を記入し[Submit Case]をクリックします。
3. サポートチームの担当者より「Permission Ticket」という名称のファイルが電子メールにて送信されます。こちらをライセンスサーバー上に保存します。
4. SafeNet License Manager を起動し、[Subnet Servers]より対象のサーバーを右クリックします。[Revoke Licenses by Permission Ticket]を選び、送信された Permission Ticket を適用します。



5. Revocation Ticket の保存を求められます。「Revocation Ticket.txt」など任意のファイル名で保存し、このファイルを Permission Ticket が送られてきたメールへの返信で RWS 担当者まで返送します。こちらをもとに RWS アカウント上で処理が行われ、ライセンスの返却が完了します。



4. Trados License Server Manager で IPv6 接続 を使用するための設定

はじめに:

- 以下で説明する IPv6 接続の設定を行う際には、Trados Studio 側でライセンス サーバーが設定されていないことを確認してください。
- 以下で説明する IPv6 接続の設定を行う際には、Trados Studio が実行されていないことを確認してください。

手順:

1. タスクバーの Windows アイコンを右クリックし、[システム]を選択します。
2. [設定]ウィンドウで、[関連設定]の下にある[システムの詳細設定]をクリックします。
3. [詳細設定]タブで[環境変数]をクリックします。
4. LSTCPIPVER 変数が存在しない場合は、[新規]をクリックし、[変数名]フィールドに「LSTCPIPVER」と入力し、値を「6」に設定します。LSTCPIPVER 変数がすでに存在する場合は、値を「6」に設定します。

注意:

- ライセンスサーバーへの接続に IPv4 を使用するか IPv6 を使用するかの設定は相互に排的です。したがって、LSTCPIPVER 変数が 6 に設定されている場合、Studio からライセンスサーバーへの接続に IPv4 を使用できなくなります（逆の場合も同様です）。
- IPv4 を再び有効にするには、LSTCPIPVER 変数を 4 に設定するか、LSTCPIPVER 変数を削除します。
- LSTCPIPVER 変数を 6 に設定するとシステム全体に適用されます。Sentinel License Server を使用する（RWS 製またはサードパーティ製の）他のアプリケーションがある場合は、それらのアプリケーションも IPv6 を使用するようになります。

5. Trados Studio 側でのネットワークライセンスの使用方法

Trados Studio を起動します。初回インストール時には 30 日間のトライアル期間が設けられていますが、こちらの日数に残りがある場合、以下のように表示されます。



またトライアル期間がすでに終了している場合、以下の画面が表示されます。



- どちらの場合も、[アクティベーション]をクリックして次の画面に移動します。

2. ここでアクティベーションコードは入力せず、[代替アクティベーション オプション]をクリックします。



3. [ライセンス サーバーの使用]をクリックします。



4. ライセンスサーバー名（サーバーの PC 名、ドメイン付き完全修飾 PC 名、または固定 IP アドレス）を[ライセンス サーバー名]フィールドに入力し、[アクティブ化]をクリックします（ライセンスサーバーと同一の PC 上にインストールされた Trados Studio をアクティブ化する場合は、[ライセンス サーバー名]に `localhost` と入力します）。



5. 使用可能なネットワークライセンスがある場合は、Trados Studio がアクティブ化されます。[OK]をクリックし、Trados Studio を起動します。



6. アクセス ログ取得の概要

Trados License Server Manager 上で、クライアントコンピューターからのアクセスに関するログを取得する方法について説明します。

6.1. アクセスログの取得のための設定

アクセスログを取得する際には、「lsusage」というコマンドを使用します。このコマンドを実行すると、それ以降、Trados Studio から Trados License Server Manager へのアクセスがテキストファイルに保存されるようになります（サーバー機の再起動を行った場合にも、再実行の必要はありません）。

実際にログの内容を確認するには、テキストファイルの内容を csv ファイルに出力して確認します。csv ファイルに出力する際に、開始日と終了日を設定して出力する情報を制限することができます。

以下の手順で lsusage コマンドを実行してください。

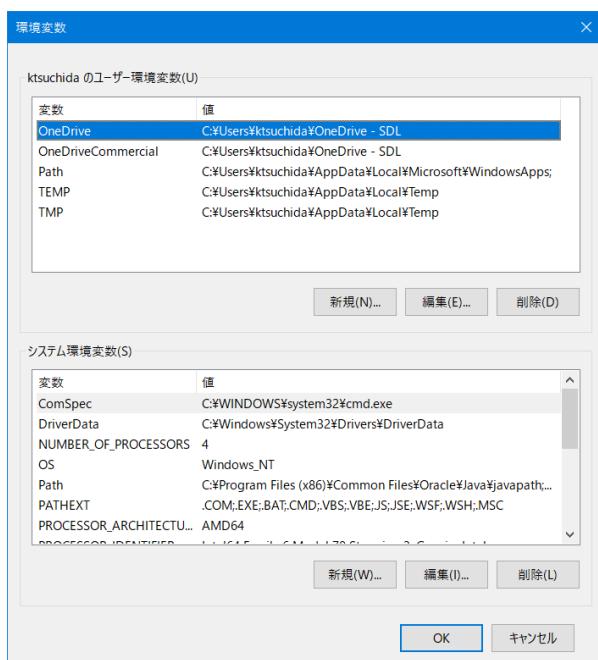
1. c ドライブの直下に「test」というフォルダを作成し、作成したフォルダ (c:\test) に、usage.txt というファイルを作成します。
2. Windows のコントロールパネルを開きます。システムとセキュリティ > システム > システムの詳細設定を選択します。



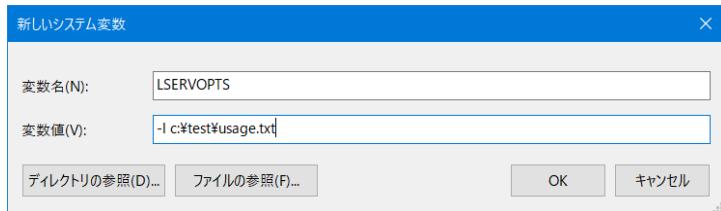
3. システムのプロパティ > 詳細設定よりシステム環境変数ボタンをクリックします。



4. システム環境変数の新規ボタンをクリックします。



5. 変数名に「LSERVOPTS」、変数値に「-l c:\test\usage.txt」と入力し、OKをクリックします。



6. コンピューターを再起動します。

6.2. コマンドの実行と CSV ファイルへの出力

1. Windows の [スタート] メニューから [アクセサリ] > [コマンドプロンプト] を選択して、コマンドプロンプトを起動します。

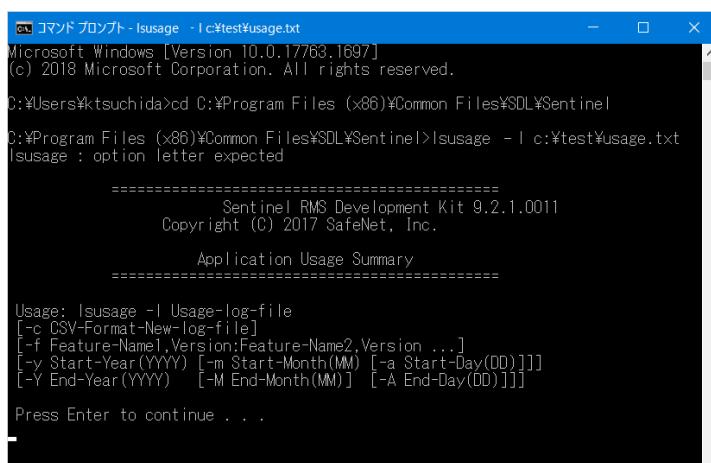
2. cd コマンドを使用して、以下のディレクトリに移動してください。

C:\Program Files (x86)\Common Files\SDL\Sentinel

3. 以下のコマンドを実行します。

lsusage -l c:\test\usage.txt

4. 以下のようなメッセージが表示されます。Enter を押して処理を開始します。



5. 以下のコマンドを実行すると、「c:\test」フォルダ内の usage.csv にログ情報が出力されます。

```
lsusage -l c:\test\usage.txt -c c:\test\usage.csv
```

6.3. 開始日および終了日の設定

CSV ファイルを出力する際に、オプションで、開始日および終了日を設定できます。

開始日の追加

```
lsusage -l c:\test\usage.txt -c c:\test\usage.csv -y(YYYY) -m(MM) -a(DD)
```

終了日の追加

```
lsusage -l c:\test\usage.txt -c c:\test\usage.csv -Y(YYYY) -M(MM) -A(DD)
```

開始日および終了日の追加

```
lsusage -l c:\test\usage.txt -c c:\test\usage.csv -y(YYYY) -m(MM) -a(DD) -Y(YYYY) -M(MM) -A(DD)
```

例：2016 年 9 月 1 日から 9 月 30 日までのログを出力する場合には、以下のように表記します。

```
lsusage -l c:\test\usage.txt -c c:\test\usage.csv -y 2016 -m 9 -a 1 -Y 2016 -M 9 -A 30
```

6.4. CSV ファイルの内容

CSV ファイルに出力された各列の内容を以下に説明します。

A 列： ライセンスのモジュール名が表示されます。「ProfessionalEdition」が Trados Studio 本体、「AllowTQA」は TQA 機能モジュールを指します。

B 列： Trados Studio バージョンが表示されます。

C 列： Trados Studio からのアクセスがあった曜日が表示されます。

D 列： Trados Studio からのアクセスがあった日付が表示されます。

E 列： Trados Studio からのアクセスがあった時刻が表示されます。

F列：ライセンスの取得および返却が表示されます。ライセンスが取得された場合には「0」、ライセンスが返却された場合には「2」になります。

G列：使用中のライセンス数が表示されます。

H列：ライセンスの使用時間が秒数で表示されます。

I列：ライセンスを使用したWindowsユーザー名が表示されます。

J列：ライセンスを使用したコンピューター名が表示されます。

K列：Trados License Server Manager のバージョンが表示されます。

L列：アクセスで取得または返却されたライセンスの本数が表示されます。通常は「1」となります。

R列：アクセスログの識別IDが表示されます。「ProfessionalEdition」と「AllowTQA」が1つのペアとなるため、同じIDが2つずつ連続して表示されます。

7. ライセンスに問題が発生した時

コンピューターが故障するなどの理由によりライセンスの非アクティブ化（返却）ができない場合、ライセンスのリセット（強制返却）を行うことができます。

7.1. RWS アカウントからのライセンスリセット

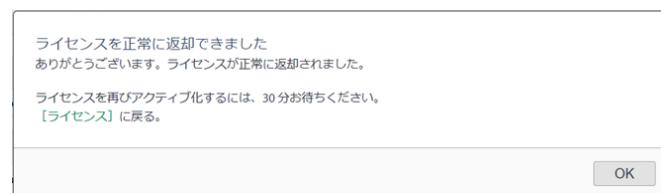
- ウェブブラウザよりRWSアカウント（<https://oos.sdl.com>）にサインインします。[製品およびプラン] > [ライセンス]よりアクティブ化したいライセンスを探し、[ライセンスのリセット]のリンクをクリックします。



2. [フルフィルメント]より[アクティベーションした日付]を確認し、[ライセンスのリセット]をクリックします（Freelance Plus エディションの場合、フルフィルメントは2つ表示されます）。



3. ライセンスが正常に返却できましたというメッセージが表示されます。30分ほど時間を空け、別のコンピューターにインストールされた Trados Studio よりアクティベーションをお試しください。



7.2. RWS サポートによるライセンス関連サポート

RWS アカウントからのライセンスリセットに何らかの問題が生じた場合、あるいはアクティブ化・非アクティブ化に問題が発生している場合、以下のウェブフォームより RWS サポートまで直接ご連絡いただけます。

<https://gateway.sdl.com/webtocaserequest>

Submit New Translation Productivity Case

If you already have an active support and maintenance agreement, or if your product is not listed below then please log in to the [SDL Gateway](#) to submit a case.

If you do not have an active support contract and would like to contact support for issues other than installation and licensing then you can purchase a support contract [here](#).

| | |
|---------------|-------------------------------------------------------------|
| Name* | <input type="text"/> |
| Email* | <input type="text"/> |
| Phone* | <input type="text"/> |
| Subject* | <input type="text"/> |
| Description* | <input type="text"/> |
| Error Message | <input type="text"/> |
| Region | <input type="text" value="Europe, Middle East and Africa"/> |
| Case Type* | <input type="text" value="--None--"/> |
| Product Name* | <input type="text" value="--None--"/> |
| Version* | <input type="text" value="--None--"/> |

各入力項目について説明します。

- **Name / Email / Phone**

お名前、電子メールアドレス、電話番号を入力します。すでに購入済みのライセンスに関するご相談の場合、メールアドレスは RWS アカウントに登録されているものを入力します。

- **Subject**

お問い合わせの概要を簡潔に入力します。例えば「アクティブ化できません」あるいは「インストール時のエラー」などが分かりやすいです。

- **Description**

申請するサポート内容を入力します。問題の発生した状況を詳しくお知らせください。

ライセンスに関する問題の場合は、対象のアクティベーションコードおよびライセンスの注文番号をあわせて記入してください。

記入例 1)

コンピューターが故障し Windows の再インストールを行なったのですが、以前に使用していた Trados のライセンスを再び使用するにはどうしたらよいでしょうか。ライセンスの情報は以下の通りです。

アクティベーションコード: xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxx

注文番号: xxxxxxxx

記入例 2)

Trados Studio をインストール中にエラーメッセージが表示され、インストールが停止してしまいました。エラーメッセージを記入しますので、対処方法を教えてください。

こちらは日本語で申請する時の記入例となります。日本語での対応時間は月曜から金曜の 10:00～17:00 ですが、英語でケースを送信するとそれ以外のタイムゾーンでも対応が可能です。

- **Error Message**

問題発生時に何らかのエラーメッセージが発生した場合、簡単にでもこちらにご記入ください。

- **Region**

日本にお住まいの場合には [Asia-Pacific] を選択します。

- **Case Type**

[Installation] および [Licensing] の選択肢があります。ライセンスリセットの場合は [Licensing] を選択します。

- **Product Name**

製品名を選択します。Trados Studio / MultiTerm などが選択可能です。

- **Version**

製品のバージョンを選択します。たとえば上の項目で [Trados Studio] を選択している場合、選択できるバージョンは 2019 / 2021 / 2022 となります。

上記を記入後、[Submit Case] をクリックし、サポートケースの登録を完了します。登録後まもなく、RWS Support <support@SDL.com>より「Case No. 00xxxxx - ...」という表題のシステムメールが自動的に送信されます。

担当者がアサインされ次第、同じ表題でメールが届きますので、こちらのメールに返信する形でサポートチームとコミュニケーションを続けることができます。メールの返信にはエラー発生時のスクリーンショットなどを添付することも可能です。

7.3. ネットワークライセンス関連ファイルの保存場所

License Server Manager v17.0.134 で管理されるネットワークライセンスに関するファイルは以下のフォルダに保存されます。

C:\Program Files (x86)\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager\WinNT

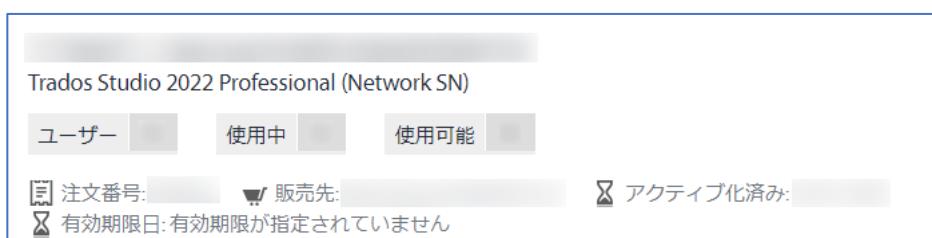
7.4. 非アクティブ化に失敗する場合の対処方法（ネットワークライセンスの強制削除）

License Server Manager でアクティブ化済みのネットワークライセンスをオンラインまたはオフラインで非アクティブ化しようとするとエラーが発生して非アクティブを行えない場合は以下の手順で対処してください（本セクションは、[こちら](#)のナレッジベース記事をベースとしています）。

1. [RWS サポートによるライセンス関連サポート](#)の手順に従って、テクニカルサポートにネットワークライセンスのリセットを依頼します。

※ License Server Manager で複数のバージョンの Trados Studio のネットワークライセンスをアクティブ化している場合は、すべてのバージョンの Trados Studio のネットワークライセンスのリセットを依頼してください。

2. テクニカルサポートからネットワークライセンスのリセットが完了した旨の連絡があったら、[RWS アカウント](#)ページにログインし、[製品およびプラン] > [ライセンスとサブスクリプション]に移動して、該当する Trados Studio ネットワークライセンスのステータスを確認し、「ユーザー」と「使用可能」の数が一致していること（「使用中」がゼロになっていること）を確認します。



3. すべての RWS 製品を終了し、License Server Manager がインストールされている PC の下記フォルダ内にある「2」サブフォルダの名前を「2_OLD」に変更します。

C:\ProgramData\SDL\NetworkLicensingServer\

※ 以下 2 つのステップは、同じ PC 上で SafeNet ライセンスシステムによってホストされている他のソフトウェア用のライセンスが存在しない場合にのみ実施してください！

4. 以前のバージョンの Trados License Server Manager から最新バージョン（17.0.134）の Trados License Server Manager にアップグレードした場合は、下記フォルダ内にある「Iservrc」サブフォルダの名前を「Iservrc_OLD」に変更します。

C:\Program Files (x86)\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager\WinNT

最初から最新バージョンの Trados License Server Manager をインストールした場合は、下記フォルダ内にある「Iservrc」サブフォルダの名前を「Iservrc_OLD」に変更します。

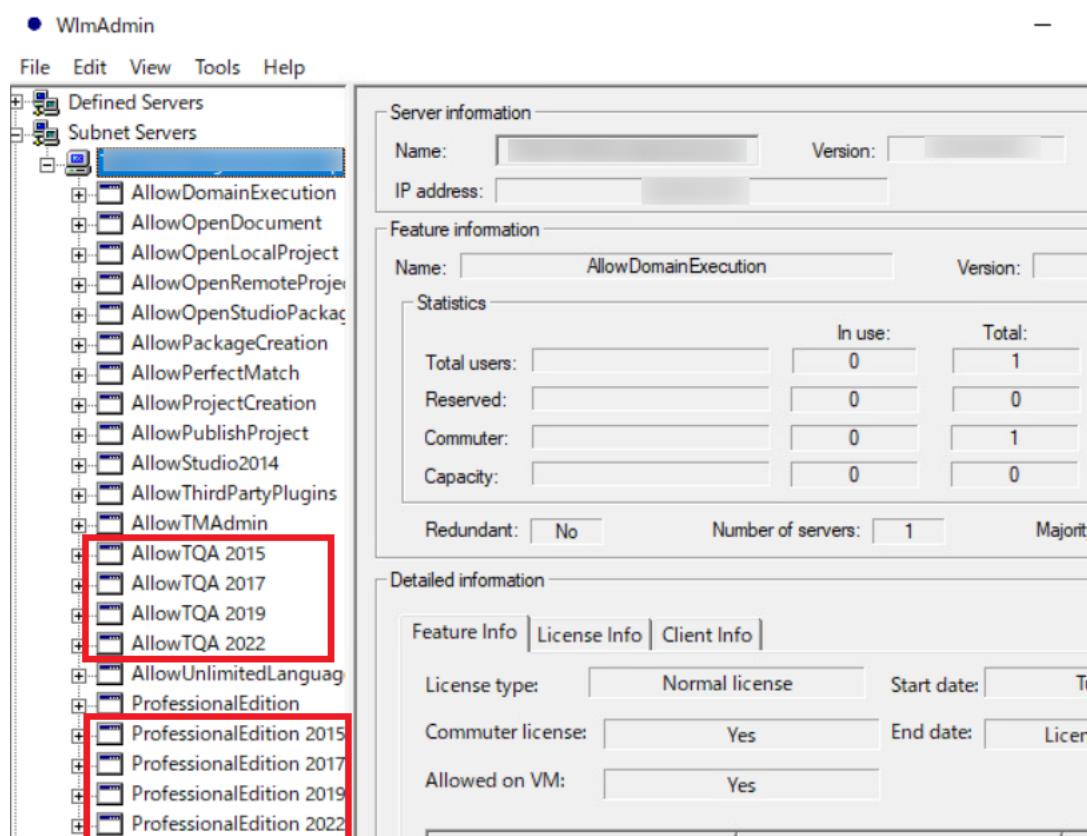
C:\Program Files (x86)\Common Files\Thales\Sentinel RMS License Manager\WinNT

5. 下記フォルダ内にある「System」サブフォルダの名前を「System_OLD」に変更します。

C:\ProgramData\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS Development Kit

※ 同じサーバー上で GroupShare もアクティブ化されている場合はステップ 5 を飛ばして
ステップ 6 に進んでください！

6. SafeNet License Manager (WlmAdmin) を起動し、左側のツリーで **AllowTQA 20xx** または **ProfessionalEdition 20xx** が表示されていないかを確認し、表示されている場合はそれ右クリックして [Remove Feature] を選択します。



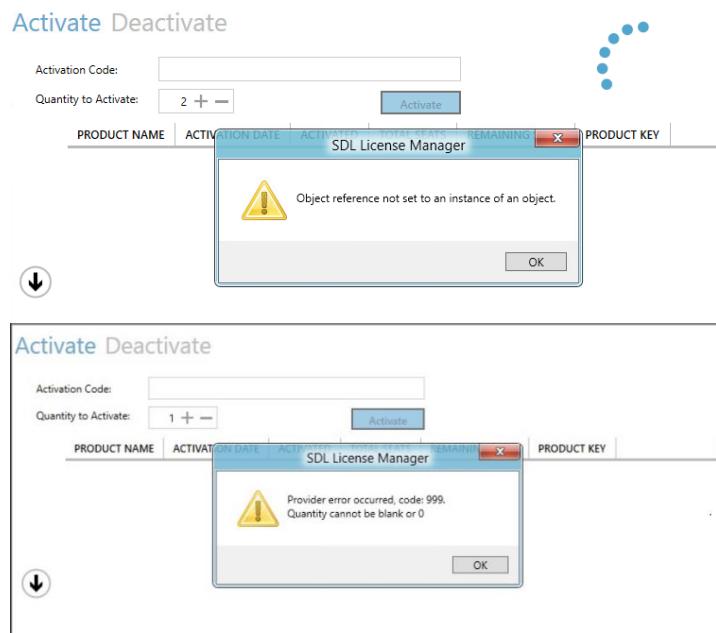
7. License Server Manager を起動し、オンラインによるライセンスのアクティブ化またはオフラインによるライセンスのアクティブ化の手順に従って、リセットされた Trados Studio ネットワークライセンスを再びアクティブ化します。
8. 必要に応じてクライアント PC でも Trados Studio を起動し、Trados Studio 側でのネットワークライセンスの使用方法の手順に従ってライセンスサーバーの PC 名を指定し直します。

7.5. ネットワークライセンスのアクティブ化または非アクティブ化の際にエラーが表示される場合の対処方法

Trados Studio または Passolo のネットワークライセンスを License Server Manager でアクティブ化する際、下図のようにエラーメッセージ "Object reference not set to an instance of an object"、エラーコード 831、またはエラーコード 999 が表示される場合

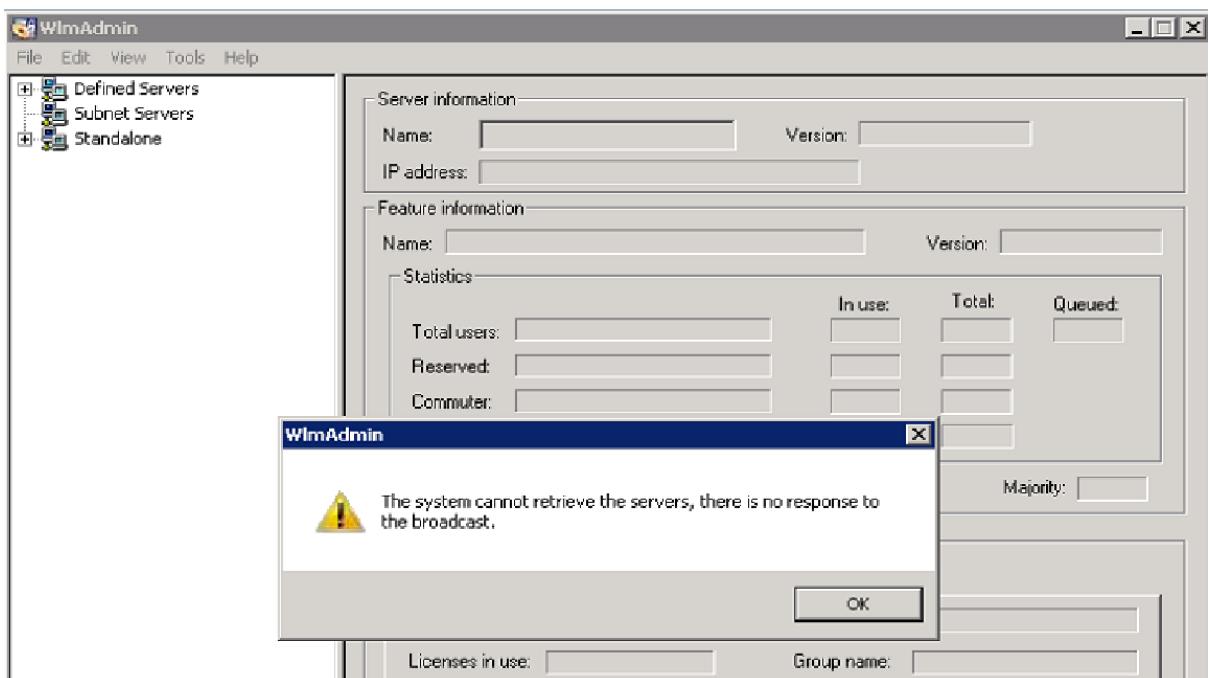
※ 参照元の英語ナレッジベース記事:

<https://gateway.sdl.com/apex/communityknowledge?articleName=000008185>



最初に以下の点を確認します。

1. Trados License Server Manager を終了し、SafeNet License Manager ツールを起動します。
(Windows の [スタート] ボタン → [Trados] フォルダ → [SafeNet License Manager (WlmAdmin)] を選択します。)
2. 「Subnet Servers」を展開します(プラス記号をクリックします)。
3. 「The system cannot retrieve the servers, there is no response to the broadcast.」というメッセージが表示された場合は、Trados License Server Manager のインストールが不完全で、Sentinel RMS License Manager サービスがインストールされていない可能性があります。この場合は、下記の解決策を実施します。



解決策 A :

1. LSM でアクティブ化済みのネットワークライセンスがある場合は、すべて非アクティブ化します。 (※ まとまった本数のネットワークライセンスを非アクティブ化 → 再アクティブ化する場合は、トラブルを避けるために SDL ジャパン株式会社側でネットワークライセンスの一括リセット処理を行いますので、事前に SDL ジャパン株式会社の営業担当までご連絡ください。)

2. コントロールパネルから Trados License Server Manager をアンインストールし、最新バージョンの Trados License Server Manager を再インストールします（※ 2024 年 7 月現在の最新バージョンである 17.0.648 のインストーラーは https://downloadcentercdn.sdl.com/TP/Trados/T2022/Licensing/SR2_CU10/LicenseServerManager17.0.648.exe から入手できます。）
3. Trados License Server Manager を起動し、ネットワークライセンスをアクティブ化します。

解決策 B (解決策 A を実施しても問題が解決しない場合) :

1. SafeNet License Manager (WlmAdmin) を起動し、[Tools] → [Service Loader] を選択します。
2. [Executable path] (C:\Program Files (x86)\Common Files\Thales\Sentinel RMS License Manager\WinNT) が表示されていることを確認します。
3. 上記のパスが表示されていない場合は、このパスを正確に指定して [Add] ボタンをクリックします。
4. ライセンスが使用中と表示される場合 ([In Use] 列に 0 以外の数字が表示される場合) は、[こちらのフォーム](#)からテクニカルサポートにネットワークライセンスのリセットを依頼します。 (※ まとまった本数のネットワークライセンスを非アクティブ化 → 再アクティブ化する場合は、トラブルを避けるために SDL ジャパン株式会社側でネットワークライセンスの一括リセット処理を行いますので、事前に SDL ジャパン株式会社の営業担当までご連絡ください。)
5. リセット完了の連絡があったら、再度ネットワークライセンスをアクティブ化します。

Trados License Server Manager 17.0.134 からネットワークライセンスを非アクティブ化する際にエラーメッセージ "Provider error occurred, code: 733. Verify Revocation failed with Error Code 210230" が表示される場合

※ 参照元の英語ナレッジベース記事:

<https://gateway.sdl.com/apex/communityknowledge?articleName=000022079>

Trados License Server Manager 17.0.134 でのネットワークライセンスの非アクティブ化は現在サポートされていません。以下の手順で最新バージョンへのアップグレードを行ってください。

解決策 :

1. こちらのフォームからテクニカルサポートにネットワークライセンスのリセットを依頼します。 (※ まとまった本数のネットワークライセンスを非アクティブ化 → 再アクティブ化する場合は、トラブルを避けるために SDL ジャパン株式会社側でネットワークライセンスの一括リセット処理を行いますので、事前に SDL ジャパン株式会社の営業担当までご連絡ください。)

*注 : 同じサーバーで複数のネットワークライセンスをアクティブ化している場合は、すべてのライセンスをリセットして再度アクティブ化する必要があります。

2. リセット完了の連絡があったら、Trados License Server Manager の最新バージョン 17.0.648 (2024 年 7 月現在) をインストールします。旧バージョンを使用している場合は、最初に旧バージョンのアンインストールを要求されることがあります。
3. Trados License Server Manager / Safenet License Manager を終了します。
4. C:\ProgramData\SDL\NetworkLicensingServer\ に移動し、"2" フォルダを削除します。
5. C:\Program Files (x86)\Common Files\SafeNet Sentinel\SafeNet RMS License Manager\WinNT に移動し、"lservrc" ファイルを削除します。

6. SafeNet License Manager (WlmAdmin) を開き、AllowTQA と ProfessionalEdition 機能が [Subnet servers] → <サーバー名> の下に引き続き表示されていることを確認します。表示されている場合は、すべてのバージョンをそれぞれ右クリックし、[Remove Feature] を選択します。
7. 新しいバージョンの Trados License Server Manager で、ネットワークライセンスを再度アクティブ化します。
8. 以後はネットワークライセンスの非アクティブがうまく行くはずです。

ネットワークライセンスを非アクティブ化する際にエラーメッセージ "Error[202]: Lock info is not matching" が表示される場合

※ 参照元の英語ナレッジベース記事:

<https://gateway.sdl.com/apex/communityknowledge?articleName=000001601>

Trados Studioなどのネットワークライセンスをアクティブ化する際、ライセンス情報はインストールIDにロックされます。デフォルトで、このIDはコンピュータのディスクIDとイーサネットアドレスから生成されます。ネットワークアダプタやネットワークコントローラなどのハードウェアが変更された場合、このインストールIDに対応するライセンス情報が無効になり、ネットワークライセンスを非アクティブ化する際にエラーメッセージ "Error[202]: Lock info is not matching" が表示されることがあります。

解決策 :

1. こちらのフォームからテクニカルサポートにネットワークライセンスのリセットを依頼します。（※まとめた本数のネットワークライセンスを非アクティブ化→再アクティブ化する場合は、トラブルを避けるためにSDLジャパン株式会社側でネットワークライセンスの一括リセット処理を行いますので、事前にSDLジャパン株式会社の営業担当までご連絡ください。）
2. リセット完了の連絡があったら、RWS アカウントにログインし、[製品およびプラン] → [ライセンスとサブスクリプション] ページで [使用可能] に表示される数字が保有しているネットワークライセンスの数と一致していることを確認します。
3. すべてのRWS製品を終了します。
4. C:\ProgramData\SDL\NetworkLicensingServer\ に移動し、"2" フォルダの名前を "2_OLD" に変更します。

***重要：**次の2つの手順は、同じサーバー上でSafeNetライセンスシステムによってホストされている他のソフトウェアのライセンスが存在しない場合にのみ実行してください。

5. 以前に Trados License Server Manager を旧バージョンから最新バージョン（17.0.648）にアップグレードした場合は、C:\Program Files (x86)\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager\WinNT に移動し、"lservrc" ファイルの名前を "lservrc_OLD" に変更します。

最初から Trados License Manager の最新バージョン（17.0.648）をインストールしていた場合は、C:\Program Files (x86)\Common Files\Thales\Sentinel RMS License Manager\WinNT に移動し、"lservrc" ファイルの名前を "lservrc_OLD" に変更します。

6. C:\ProgramData\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS Development Kit に移動し、"System" フォルダの名前を "System_OLD" に変更します。

***重要：**同じサーバーで GroupShare をアクティブ化している場合は、ステップ 9 を実行せずにステップ 10 へ進んでください。

7. SafeNet License Manager (WlmAdmin) を開き、AllowTQA 2019 / 2021 / 2022 または Professional Edition 2019 / 2021 / 2022 機能が [Subnet servers] → <サーバー名> の下に引き続き表示されていることを確認します。表示されている場合は、それぞれを右クリックし、[Remove Feature] を選択します。
8. オンラインまたはオフラインでのアクティブ化手順を使用して、Trados Studio ネットワークライセンスをアクティブ化します。
9. ユーザーのマシンで Trados Studio 2019 / 2021 / 2022 を再び起動し、ライセンスサーバーに再接続します。

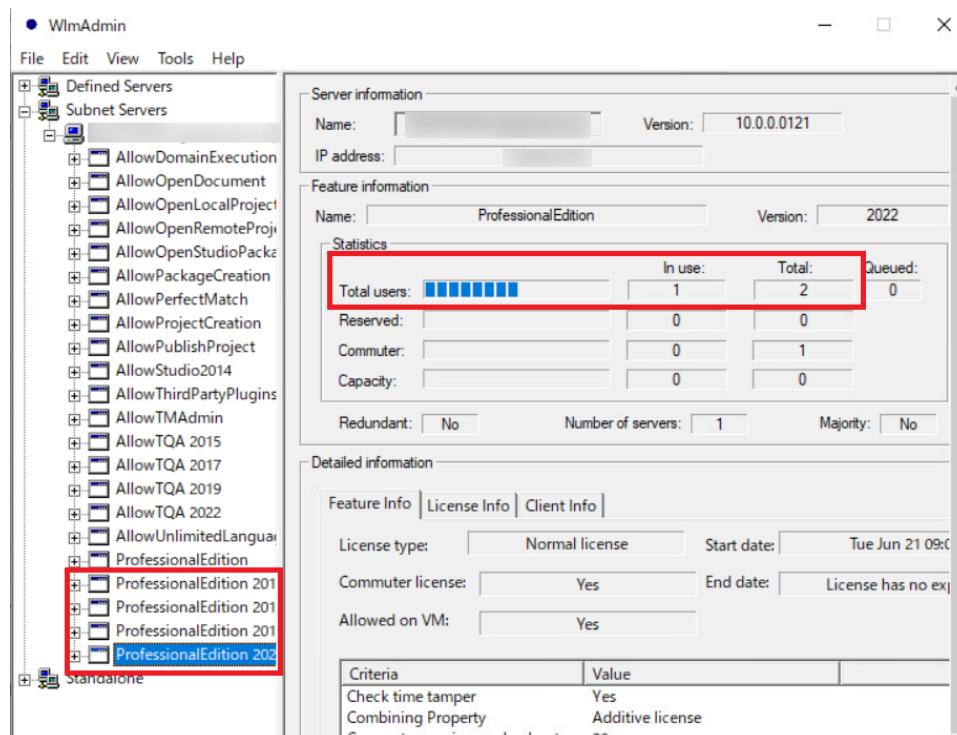
7.6. アクティブ化済みのネットワークライセンス数や使用中のネットワークライセンス数を正確に確認する方法

ネットワークライセンスをアクティブ化する際に “Object reference not set to an instance of an object” などのエラーメッセージやエラーコード 831、999 が表示された場合、または License Server Manager 画面の PRODUCT NAME 列に UNKNOWN と表示される場合でも、実際にはネットワークライセンスが正常にアクティブ化されている場合があります。

そのような場合に、アクティブ化済みのネットワークライセンス数や使用中のネットワークライセンス数を正確に把握したい場合は、以下の方法で SafeNet License Manager から確認することができます。

1. Licence Server Manager と同じ PC にインストールされている SafeNet License Manger を起動します。
2. 左側のツリーで [Subnet Servers] → <License Server Manger がインストールされている PC 名> > → [Professional Edition 20XX]（「20XX」はライセンスをアクティブ化した Trados Studio のバージョン番号）を選択します。
3. [Total users] 行の [Total] 列にアクティブ化済みのネットワークライセンス数が表示され、[In use] 列に現在使用中のネットワークライセンス数が表示されます。

注: [In use] の値は SafeNet License Manger を起動した時点で使用中のネットワークライセンス数を示し、リアルタイムでは更新されません。最新の値を取得するには、SafeNet License Manger を再起動してください。



About RWS

RWS Holdings plc is a unique, world-leading provider of technology-enabled language, content and intellectual property services. Through content transformation and multilingual data analysis, our unique combination of technology and cultural expertise helps our clients to grow by ensuring they are understood anywhere, in any language.

Our purpose is unlocking global understanding. By combining cultural understanding, client understanding and technical understanding, our services and technology assist our clients to acquire and retain customers, deliver engaging user experiences, maintain compliance and gain actionable insights into their data and content.

Our clients include 90 of the world's top 100 brands, the top 20 pharmaceutical companies and 19 of the top 20 patent filers. Our client base spans Europe, Asia Pacific, and North and South America. We work in the automotive, chemical, financial, legal, medical, pharmaceutical, technology and telecommunications sectors, which we serve from 80+ global locations across five continents.

Founded in 1958, RWS is headquartered in the UK and publicly listed on AIM, the London Stock Exchange regulated market (RWS.L).

For further information please visit www.rws.com

© 2 July 2024 All rights reserved. Information contained herein is deemed confidential and the proprietary information of RWS Group*.

*RWS Group shall mean RWS Holdings PLC for and on behalf of its affiliates and subsidiaries.